

かしわ

「夏休み」の過ごし方

教頭 村野 茂

夏休みは、どのように過ごしましたか。7月下旬は夏らしくない空模様の日が多かった気がします。8月に入ると雷、大雨それも短時間に集中的に降り市内でも冠水する箇所があったりと生活に影響が出ました。日中の最高気温が30℃以上の日を「真夏日」、35℃以上の日を「猛暑日」というようですが体温を超える猛暑日となった地域もあり、ニュースや新聞でも連日取り上げていました。8月7日は「立秋」で暑さが極まり秋の気が立つ頃とされていますが、その7日前後は本当に暑く、暑さのピークで「真夏日」「猛暑日」でした。夏バテや熱中症にかかりませんでしたか。涼しくなるのは、平年なら9月23日の秋分の日あたりからなので、引き続き水分補給、冷房を適度に使用しながら体調に気を配っていきましょう。

この季節にしか体験できないこともたくさんあります。望んでいない迷惑なことも多々ありますがどれくらい使ったり聞いたり、又は体験しましたか。「豪雨」「ゲリラ豪雨」「冠水」「浸水」、前述した気温に関する「真夏日」「猛暑日」「夏日」「酷暑日」「熱帯夜」などの他にも暑さを表現として「蒸し蒸し」「じりじり」「べたつく…」「むっとする…」「うっすら汗をかく」「灼熱の太陽」「厳しい残暑」「汗がぽとぽと落ちてく…」「蒸し風呂のような…」「息苦しいほど…」「くらくらするような…」「焼けつけるような…」「息の詰まるような…」「うだるような…」「体がゆだる」「不快指数」など調べてみた



No. 11 平成29年8月24日 8月に咲いた浜木綿

様々な状況に応じた表現や類語があります。教わるだけでは身につかないものが多くあります。この夏休みに体験し感じたことや聞いたことなどから知識が広がり、さらに興味がわくことに期待しています。体験したことを言葉で表現する、言葉と結びつけることで身につけていくものです。

しかし、直接体験することばかりではないので読書や新聞、ニュースなど間接的な体験が必要です。聴覚に障害を持っている子どもたちだからこそ、私たちが意識してかかわっていくことが重要となってきます。

次の例は、聴覚障害児が生活経験不足から陥りやすい具体例です。

具体化力に関する内容

(1)90グラムの砂糖と40グラムの砂糖を合わせると何グラムになりますか？

$90+40=130$ 130グラムと答えられる。

(2)90℃のお湯200ミリリットルと40℃のお湯200ミリリットルを合わせると何℃になりますか？

生活場面（具体例）をイメージできない子どもは $90^{\circ}\text{C}+40^{\circ}\text{C}=130^{\circ}\text{C}$ と答える。

これは7月下旬に富山県で開催された全国聾学校教頭会の研究協議の中で助言者から紹介していただいた内容です。今後も生活の言語化、言語力を意識した取り組みを模索していきたいと思えます。余談ですが、富山県で「きとき」という方言に出会いました。意味は「新鮮」等の生きのいい状態を言うそうです。気持ちだけでもきときと生活が送れるように努力しようと思った夏でした。

校内芸術鑑賞会

教諭 高橋 侑助

6月23日、校内芸術鑑賞会が行われました。

「小林紀子バレエアター」の方が来て、実際にバレエを踊ったり、見たりして子どもも大人も楽しむことができましたと思います。

まず三時間目のリハサルではワークショップのときに練習したステップの確認とみんなで舞台上がってダンスの練習をしました。しっかりとダンスの方をよく見て、話を聞いて練習できたと思います。伸脚して足を回すものや8カットでジャンプして足のつま先をさわるものがあり、「難しい」といいながらも「できた」といって喜んでいる子どももいました。

本番では最初に小学部の先生が側転やつま先タッチを披露しました。客席からは「すごい」「カッコいい」という声が聞こえてきて、小学部の先生はとてもうまくできたようで、終わった後、とても嬉しそうにしていました。

その後男の子だけのダンスや女の子だけのダンス、全員でのダンスを披露してくれました。

その次に貴族役に扮した小学部の先生と妖精役の児童が出てきました。4人の児童は妖精の衣装とお化粧をして出てきました。お化粧をする機会はほとんどないと思うので、子どもたちにとっていい経験になったのではないのでしょうか。妖精が出てくると「かわいい」「きれい」という声が次々に上がり、会場が笑顔になりました。

ダンスが終わってもまだ踊りたい子もいたようで、それほどダンスが楽しかったのだなと感じました。

最後にバレエアターの方が実際に作品



を見せてくれました。私自身バレエを見たことがなかったのととても新鮮で素敵な時間を過ごすことができたととてもよかったですと思います。

幼稚部 観音崎遠足

乳幼・幼稚部 田中 康次

6月26日(月) 幼稚部の遠足(観音崎)が行われました。

衣笠山の時と同じようにRちゃんが隊長です。先頭に立って人数確認、注意事項の説明などをしてくれました。

灯台を目指して7人で歩きました。かくあじさい、ひるがおなどの植物の前で立ち止まり、ご両親がわかりやすくことばかけをしていました。

途中、10メートルくらいの暗いトンネルを『一人で歩こう』というゲームをしました。最後に担任の先生の番になった時、すでに通り終えたRちゃんが迎えに行くという微笑ましい場面がありました。灯台



に着いた時には、みんなで達成感を分かち合いました。

灯台の上へのぼり、下で見上げている担任の先生に向かってRちゃんが「おーい」と言いました。下まで届くようにという思いが込められているからかいつもの声よりとても大きく感じられました。

やまゆりやハート型の草のトンネルなどを見ながら磯遊びの場所にきました。

バケツや網を持って磯遊びをしました。とれたものは蟹、やどかり、魚などです。

お弁当のあと貝拾いをしました。貝や石を袋に入れてお土産に持って帰りました。

心配された雨も降らずRちゃんにとって、とても思い出に残る遠足になりました。